



自分の意

第1回甘楽町

自分の心を固い殻の中に閉ざしてしまっています。いじめられっ子の気持ちになって話しかけようことができたなら、人の心を固い殻に逃いづめなくても済むのです。

だけれって、いじめをして面白い、なんて思わないでしょう。もし、そんな人がいたとしたら、その人は最低です。心が正しいのです。人間のクズなんです。もっと、相手の気持ちを理解してあげることは、できなかったのでしょうか。

また、いじめの被害者である人も、どうしてすぐに「死」を選ぶのでしょうか。「服からもらった命、こんなことで無駄にしてはまるか」と、どうして思ってしまったのか、というのか。一つしかない命、一度しかない人生の大切さを、もっと、もっと深く考えてほしいのです。

人間の心の中には「天使」

優秀賞



松本ゆきえさん

一中3年

「幸福について」

優秀賞



吉沢小百合さん

二中3年

「運う女御切実顔で実行」

佳作



堀口 光江さん

一中2年

「強く強くそして輝いて」

佳作



原田実由貴さん

三申3年

「今を考える」

佳作



中島 秀子さん

一中3年

「21世紀への願い」

佳作



小林 尚子さん

二中3年

「老齢化社会を考える」

佳作



吉田 恭子さん

一中1年

「お年寄りを大切に」

と「悪魔」がいます。どんなにいいわるい人でも、心の中心には天使がいます。また、どんなに優しい人でも心のどこかに悪魔がひそんでいます。両者は常に争っているのです。一つの例をあげると、夫先にとりかかるとはいい品物があります。しかし、自分はお金を全然もっていません。でも、とにかくそれがほしいのです。ここで、天使と悪魔が戦います。天使が勝つと、なんとかその場は、あきらめるでしょう。しかし、悪魔が勝つてしまうと、かまわずその品物を盗んでしまうことになるのです。

いじめなんて、悪魔が勝つてしまふから起こる問題なんです。だから、みんなの心の中心の天使を勝たせてあげる努力をしましょう。

人間、競うことは必要です。しかし、強く争うことが一体例になるといえるでしょう。

そんな争いは、人間に悪影響を及ぼすだけなのです。いじめは小さな戦争です。いじめっ子といじめられっ子が戦っているのです。

原簿と同様に、心の傷はなかなか癒えません。だから、いじめっ子は、いじめられっ子の心の傷を早く治してあげましょう。同時に、今までの自分を深く反省するのです。自分の心の悪魔と天使がどういふ状態であるか、時々自分自身に問いかけてみることも必要だと思えます。

今のあなたは どうですか。心の天使は、羽ばたいていますか。もし、天使が羽ばたいていたら、友達の天使も羽ばたかせてあげるのです。次から次へ、天使だけを羽ばたかせてあげましょう。そして、友達を助けるのです。もう、いじめなんて問題は決して起こらないと私は信じています。